

科目名	理学療法研究法Ⅱ						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	保健学博士，運動器認定理学療法士，医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	60	開講時期	通年
授業形態	講義/演習						

授業概要

理学療法における研究活動の流れを演習を通じて学修します。

学修到達目標

1. 理学療法における基本的研究活動を実践できる。
2. 学内研究発表会において自身の研究成果を発表できる。
3. 自身の研究結果を模擬論文化できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 理学療法におけるエビデンスの活用と実践① |
| 第2回 | 理学療法におけるエビデンスの活用と実践② |
| 第3回 | 研究計画の見直し |
| 第4回 | 研究計画の見直し（演習） |
| 第5回 | 研究計画書の修正（演習） |
| 第6回 | 予備研究の基礎的知識① |
| 第7回 | 予備研究の基礎的知識② |
| 第8回 | 予備研究の実践①（演習：データの取得） |
| 第9回 | 予備研究の実践②（演習：データの取得） |
| 第10回 | 予備研究の実践③（演習：統計解析） |
| 第11回 | 統計解析の実践①（差の検定） |
| 第12回 | 統計解析の実践②（分散分析） |
| 第13回 | 統計解析の実践③（相関分析） |
| 第14回 | 統計解析の実践④（単回帰分析） |
| 第15回 | 統計解析の実践⑤（重回帰分析） |
| 第16回 | 統計解析の実践⑥（多重ロジスティック分析） |
| 第17回 | 統計解析の実践⑦（カイ二乗検定） |
| 第18回 | データ取得時の留意点① |
| 第19回 | データ取得時の留意点② |
| 第20回 | 研究発表に向けての準備 |
| 第21回 | 論文執筆における基礎的知識① |
| 第22回 | 論文執筆における基礎的知識② |
| 第23回 | 研究発表準備と論文作成① |
| 第24回 | 研究発表準備と論文作成② |
| 第25回 | 研究発表準備と論文作成③ |
| 第26回 | 研究発表準備と論文作成④ |

第27回 研究発表会①

第28回 研究発表会②

第29回 研究発表会③

第30回 研究発表会④

評価方法

研究発表会における発表内容（50％）論文内容（50％）

教科書

プリント教材

参考図書・文献

最新理学療法学講座 理学療法研究法（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

実際の研究活動を行いますので、日常の疑問に目を向けるとともに論文を日頃から読む習慣をつけるようにしてください。

科目名	リスクマネジメント論						
担当講師	佐藤浩哉						
実務経験の概要	医学博士，理学療法士，医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

医療・リハビリテーションにおけるリスクマネジメントの基本概念を理解し，理学療法及び基本的な疾患別の対応力を身につける。

学修到達目標

- 1, 医療及びリハビリテーションにおけるリスクを理解する。
- 2, リスクの種類が分かる。
- 2, 理学療法実施時のリスク管理を理解する。
- 3, 疾患別のリスクを理解する。
- 4, 法的視点からみたリスクマネジメントが分かる。
- 5, 災害時のリスクマネジメントを理解する。

授業計画

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | リスクマネジメントとは？ |
| 第2回 | 医療事故・インシデント・ヒヤリハット |
| 第3回 | リスク分類と発生要因1 |
| 第4回 | リスク分類と発生要因2 |
| 第5回 | リスクアセスメント1 |
| 第6回 | リスクアセスメント2 |
| 第7回 | ICU/CCUでのリスク管理 |
| 第8回 | 理学療法実施上のリスク管理 |
| 第9回 | 理学療法と薬剤の影響 |
| 第10回 | 胸痛・頭痛 |
| 第11回 | 目眩・失神・呼吸困難 |
| 第12回 | てんかん・けいれん発作 |
| 第13回 | 嘔気・嘔吐 |
| 第14回 | 糖尿病・転倒・転落 |
| 第15回 | 振り返り |

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

特になし

科目名	理学療法評価学VI						
担当講師	及川真人 長野由紀江 及川龍彦 菊池賢汰 久保加世子						
実務経験の概要	及川真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。 長野由紀江 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 菊池賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 久保加世子 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	前期
授業形態	演習/オムニバス						

授業概要

グループワークや自己学習を通じ、各領域における臨床推論を演習形式で学修します。

学修到達目標

1. 臨床思考過程の流れを経験し理解する。
2. 各分野における臨床推論の流れを理解できる。

授 業 計 画

第1回	脳血管疾患における臨床推論①	及川真人
第2回	脳血管疾患における臨床推論②	及川真人
第3回	脳血管疾患における臨床推論③	及川真人
第4回	脳血管疾患における臨床推論④	及川真人
第5回	脳血管疾患における臨床推論⑤	及川真人
第6回	神経筋疾患における臨床推論①	長野由紀江
第7回	神経筋疾患における臨床推論②	長野由紀江
第8回	神経筋疾患における臨床推論③	長野由紀江
第9回	神経筋疾患における臨床推論④	長野由紀江
第10回	内部障害系疾患の臨床推論①	及川龍彦
第11回	内部障害系疾患の臨床推論②	及川龍彦
第12回	内部障害系疾患の臨床推論③	及川龍彦
第13回	内部障害系疾患の臨床推論④	及川龍彦
第14回	内部障害系疾患の臨床推論⑤	及川龍彦
第15回	骨関節疾患における臨床推論①	菊池賢汰
第16回	骨関節疾患における臨床推論②	菊池賢汰
第17回	骨関節疾患における臨床推論③	菊池賢汰
第18回	骨関節疾患における臨床推論④	菊池賢汰
第19回	骨関節疾患における臨床推論⑤	菊池賢汰
第20回	発達障害における臨床推論①	久保加世子
第21回	発達障害における臨床推論②	久保加世子
第22回	発達障害における臨床推論③	久保加世子
第23回	発達障害における臨床推論④	久保加世子

評価方法

レポート課題

教科書

必要に応じてプリント教材

参考図書・文献

内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

各理学療法学の仕上げもしくは補足的学修となります。最終的には個人の能力として身につける必要がありますので十分な復習を行なってください。

科目名	骨関節系理学療法学Ⅱ						
担当講師	菊池賢汰 千葉慎一						
実務経験の概要	菊池賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する. 千葉慎一 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	通年
授業形態	講義/演習						

授業概要

講義やグループワークを通じ、骨関節領域における病期毎の理学療法を学修します。

学修到達目標

1. 骨関節領域における病期毎の目的を説明できる。
2. 骨関節領域における理学療法の概要を説明できる。
3. 骨関節領域における基本的な理学療法技術を模擬患者へ実施できる。

授 業 計 画

第1回	股関節疾患における理学療法：講義①	菊池賢汰
第2回	股関節疾患における理学療法：講義②	菊池賢汰
第3回	股関節疾患における理学療法：講義③	菊池賢汰
第4回	股関節疾患における理学療法：実技	菊池賢汰
第5回	股関節疾患における理学療法：グループワーク	菊池賢汰
第6回	膝関節疾患における理学療法：講義①	菊池賢汰
第7回	膝関節疾患における理学療法：講義②	菊池賢汰
第8回	膝関節疾患における理学療法：講義③	菊池賢汰
第9回	膝関節疾患における理学療法：実技	菊池賢汰
第10回	膝関節疾患における理学療法：グループワーク	菊池賢汰
第11回	足関節疾患における理学療法：講義①	菊池賢汰
第12回	足関節疾患における理学療法：講義②	菊池賢汰
第13回	足関節疾患における理学療法：講義③	菊池賢汰
第14回	足関節疾患における理学療法：実技	菊池賢汰
第15回	足関節疾患における理学療法：グループワーク	菊池賢汰
第16回	脊椎疾患における理学療法：講義①	菊池賢汰
第17回	脊椎疾患における理学療法：講義②	菊池賢汰
第18回	脊椎疾患における理学療法：講義③	菊池賢汰
第19回	脊椎疾患における理学療法：実技	菊池賢汰
第20回	脊椎疾患における理学療法：グループワーク	菊池賢汰
第21回	関節リウマチにおける理学療法：講義①	菊池賢汰
第22回	関節リウマチにおける理学療法：グループワーク	菊池賢汰
第23回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第24回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第25回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第26回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第27回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一

第28回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第29回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第30回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第31回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第32回	肩関節疾患における理学療法	千葉慎一
第33回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第34回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第35回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第36回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第37回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第38回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第39回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第40回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第41回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第42回	肘関節疾患における理学療法	千葉慎一
第43回	運動連鎖①	千葉慎一
第44回	運動連鎖②	千葉慎一
第45回	運動連鎖③	千葉慎一

評価方法

筆記試験（菊池分50％，千葉分50％）

教科書

プリント教材 運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版（南江堂）

参考図書・文献

筋骨格系のキネシオロジー原著第3版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

科目名	内部障害系理学療法学Ⅱ						
担当講師	及川龍彦 中田隆文						
実務経験の概要	及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する. 中田隆文 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/オムニバス						

授業概要

呼吸器疾患および周術期・急性期・慢性期の呼吸障害に対し、安全なリスク管理のもとで、評価（アセスメント）、実践介入（コンディショニング、運動療法、ADLトレーニング、セルフマネジメント支援・教育）、再評価を実施できる基礎能力を養います。

講義やグループワークを通じ、内部障害領域における理学療法を学修します。

学修到達目標

1. 呼吸の解剖生理・病態を臨床所見と結びつけて説明できる。
2. バイタルサイン、酸素化能、呼吸仕事量などから実践介入可否・中止判断ができる。
3. 呼吸理学療法に必要な評価を実施し解釈できる。
4. 排痰法・呼吸介助・呼吸練習・運動療法を、病態と所見に合わせて選択できる。
5. 症例から問題点を抽出し、目標と介入計画・再評価指標を立案できる。

授 業 計 画

第1回	オリエンテーション	中田隆文
第2回	解剖生理①	中田隆文
第3回	解剖生理②	中田隆文
第4回	病態総論	中田隆文
第5回	検査の見方①	中田隆文
第6回	検査の見方②	中田隆文
第7回	リスク管理	中田隆文
第8回	評価①：問診・視診・触診・聴診・打診	中田隆文
第9回	評価②：演習	中田隆文
第10回	評価③：運動処方の準備	中田隆文
第11回	評価④：演習	中田隆文
第12回	排痰手技①	中田隆文
第13回	排痰手技②	中田隆文
第14回	コンディショニング①	中田隆文
第15回	コンディショニング②：演習	中田隆文
第16回	運動療法①総論	中田隆文
第17回	運動療法②処方：演習	中田隆文
第18回	酸素療法・人工換気・人工心肺	中田隆文
第19回	呼吸管理法：演習	中田隆文
第20回	急性期・集中治療室・周術期理学療法	中田隆文
第21回	慢性心不全と慢性呼吸不全	中田隆文
第22回	神経筋疾患、医療的ケア児、マルチモビディティ、医療介護関連肺炎	中田隆文

第23回	セルフマネジメント支援	中田隆文
第24回	糖尿病に対する理学療法①	及川龍彦
第25回	糖尿病に対する理学療法②	及川龍彦
第26回	糖尿病に対する理学療法③	及川龍彦
第27回	糖尿病に対する理学療法④	及川龍彦
第28回	糖尿病に対する理学療法⑤	及川龍彦
第29回	糖尿病に対する理学療法⑥	及川龍彦
第30回	糖尿病に対する理学療法⑦	及川龍彦
第31回	糖尿病に対する理学療法⑧	及川龍彦
第32回	がんに対するリハビリテーション①	及川龍彦
第33回	がんに対するリハビリテーション②	及川龍彦
第34回	がんに対するリハビリテーション③	及川龍彦
第35回	がんに対するリハビリテーション④	及川龍彦
第36回	がんに対するリハビリテーション⑤	及川龍彦
第37回	がんに対するリハビリテーション⑥	及川龍彦
第38回	がんに対するリハビリテーション⑦	及川龍彦
第39回	慢性腎臓病に対する理学療法①	及川龍彦
第40回	慢性腎臓病に対する理学療法②	及川龍彦
第41回	慢性腎臓病に対する理学療法③	及川龍彦
第42回	慢性腎臓病に対する理学療法④	及川龍彦
第43回	慢性腎臓病に対する理学療法⑤	及川龍彦
第44回	慢性腎臓病に対する理学療法⑥	及川龍彦
第45回	その他の内部障害に対する理学療法	及川龍彦

評価方法

筆記試験（及川分50％，中田分50％）

教科書

プリント教材

参考図書・文献

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅱ						
担当講師	及川真人 諸橋勇						
実務経験の概要	及川真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する. 諸橋勇 : 障害科学修士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	3	時間数	90	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/オムニバス						

授業概要

中枢神経理学療法学Ⅰで習得した知識をもとに、中枢神経理学療法学Ⅱにおいては、問題点を統合・解釈していきながら、具体的な治療プログラムにつなげていく過程を中心に学習していきます。講義や演習・実技、グループワークを通じ、中枢神経領域における病期ごとの理学療法アプローチの実際を学修していきます。

学修到達目標

1. 中枢神経障害領域における理学療法の目的を説明できる。
2. 中枢神経障害領域における理学療法の概要を説明できる。
3. 中枢神経障害における基本的評価が実践でき、評価結果を統合・解釈し問題点を抽出できるようになる。
4. 中枢神経障害における基本的な理学療法技術を実習において実践できる。

授 業 計 画

第1回	脊髄損傷に対する急性期理学療法①(概要)	及川真人
第2回	脊髄損傷に対する急性期理学療法②(医学的介入)	及川真人
第3回	脊髄損傷に対する急性期理学療法③(理学療法評価)	及川真人
第4回	脊髄損傷に対する急性期理学療法④(理学療法評価)	及川真人
第5回	脊髄損傷に対する回復期理学療法⑤(治療・指導)	及川真人
第6回	脊髄損傷に対する回復期理学療法⑥(治療・指導)	及川真人
第7回	脊髄損傷に対する生活期理学療法⑦(治療・指導)	及川真人
第8回	脳血管疾患に対する理学療法①(概要と医学的介入)	及川真人
第9回	脳血管疾患に対する理学療法②(リスク管理)	及川真人
第10回	脳血管疾患に対する理学療法③(理学療法評価と治療Ⅰ)	及川真人
第11回	脳血管疾患に対する理学療法④(理学療法評価と治療Ⅱ)	及川真人
第12回	脳血管疾患に対する理学療法⑤(理学療法評価と治療Ⅲ)	及川真人
第13回	脳血管疾患に対する理学療法⑥(理学療法評価と治療Ⅳ)	及川真人
第14回	脳血管疾患に対する理学療法⑦(理学療法評価と治療Ⅴ)	及川真人
第15回	脳血管疾患に対する理学療法⑧(理学療法評価と治療Ⅵ)	及川真人
第16回	脳血管疾患に対する理学療法⑨(統合と解釈：演習Ⅰ)	及川真人
第17回	脳血管疾患に対する理学療法⑩(統合と解釈：演習Ⅱ)	及川真人
第18回	脳血管疾患に対する理学療法⑪(統合と解釈：演習Ⅲ)	及川真人
第19回	脳血管疾患に対する理学療法⑫(統合と解釈：演習Ⅳ)	及川真人
第20回	脳血管疾患に対する理学療法⑬(統合と解釈：演習Ⅴ)	及川真人
第21回	脳血管疾患に対する理学療法⑭(統合と解釈：演習Ⅵ)	及川真人
第22回	中枢神経疾患の病態と各病期の理学療法①	諸橋勇
第23回	中枢神経疾患の病態と各病期の理学療法②	諸橋勇

第24回	中枢神経疾患の評価(脳卒中)①	諸橋勇
第25回	中枢神経疾患の評価(脳卒中)②	諸橋勇
第26回	中枢神経疾患の評価(高次脳機能・画像診断)③	諸橋勇
第27回	中枢神経疾患の評価(高次脳機能・画像診断)④	諸橋勇
第28回	中枢神経疾患の動作分析①	諸橋勇
第29回	中枢神経疾患の動作分析②	諸橋勇
第30回	中枢神経疾患の動作分析③	諸橋勇
第31回	中枢神経疾患の動作分析④	諸橋勇
第32回	姿勢制御と動作①	諸橋勇
第33回	姿勢制御と動作②	諸橋勇
第34回	脳卒中患者に対する臨床思考過程①	諸橋勇
第35回	脳卒中患者に対する臨床思考過程②	諸橋勇
第36回	治療①臥位～座位	諸橋勇
第37回	治療②臥位～座位	諸橋勇
第38回	治療③座位～立位	諸橋勇
第39回	治療④座位～立位	諸橋勇
第40回	治療⑤歩行	諸橋勇
第41回	治療⑥歩行	諸橋勇
第42回	症例検討①(急性期)	諸橋勇
第43回	症例検討②(回復期)	諸橋勇
第44回	症例検討③(回復期)	諸橋勇
第45回	症例検討④(生活期)	諸橋勇

評価方法

筆記試験(及川：50% 諸橋：50%)

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

科目名	神経筋疾患理学療法学						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設において実務経験を有する。☑						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/演習						

授業概要

神経変性疾患・筋変性疾患は、難病と呼ばれ治療法が確立していない疾患が多いため、疾患とともに生活されています。この講義では、その対象となる方々への理学療法の目的や過程を学びます。

学修到達目標

1. 難病疾患の病態を説明できる。
2. 病態，過程に応じた理学療法の目的と評価，プログラムの過程を述べることができる。
3. 難病疾患を有した症例について，理学療法推論に基づき，理学療法過程を述べることができる。☑

授 業 計 画

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 難病疾患とは 概要① |
| 第2回 | 難病疾患とは 概要② |
| 第3回 | パーキンソン病 病態と障害 |
| 第4回 | パーキンソン病 評価と理学療法 |
| 第5回 | パーキンソン病 病気に応じた理学療法 |
| 第6回 | パーキンソン病 理学療法介入の実習 |
| 第7回 | パーキンソン病 演習① |
| 第8回 | パーキンソン病 演習② |
| 第9回 | 脊髄小脳変性症 病態と障害 |
| 第10回 | 脊髄小脳変性症 評価と理学療法 |
| 第11回 | 脊髄小脳変性症 病気に応じた理学療法 |
| 第12回 | 脊髄小脳変性症 理学療法介入の実習 |
| 第13回 | 脊髄小脳変性症 演習① |
| 第14回 | 脊髄小脳変性症 演習② |
| 第15回 | 筋萎縮側索硬化症 多発性硬化症 病態と障害 |
| 第16回 | 筋萎縮性側索硬化症 多発性硬化症 評価と理学療法 |
| 第17回 | 筋萎縮性側索硬化症 多発性硬化症 病気に応じた理学療法☑ |
| 第18回 | 筋萎縮性側索硬化症 演習① |
| 第19回 | 筋萎縮性側索硬化症 演習② |
| 第20回 | ギランバレー症候群 多発性筋 重症筋無力症等 病態と障害 |
| 第21回 | ギランバレー症候群 多発性筋 重症筋無力症等 評価と理学療法 |
| 第22回 | ギランバレー症候群 演習① |
| 第23回 | ギランバレー症候群 演習② |

評価方法

筆記試験

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト改訂第3版(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

神経内科学で学んだことを復習し、疾患の病態を理解してください。

科目名	発達障害理学療法学						
担当講師	久保加世子						
実務経験の概要	理学療法士，総合病院・医療型障害児施設で実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

運動発達障害に対する理学療法について学修します。

学修到達目標

1. 正常発達について理解できる。
2. 脳性麻痺に対する理学療法について理解できる。
3. 子どもの整形外科疾患に対する理学療法について理解できる。
4. 子どもの遺伝性疾患に対する理学療法について理解できる。
5. 知的障害およびその他の発達障害に対する理学療法について理解できる

授 業 計 画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 運動発達障害の概要と病態 |
| 第2回 | 正常運動発達，原始反射および姿勢反射・反応 |
| 第3回 | 運動発達評価法 |
| 第4回 | 正常運動発達，原始反射および姿勢反射・反応（実技） |
| 第5回 | 脳性麻痺総論と類型別特徴 |
| 第6回 | 脳性麻痺の異常姿勢反射と姿勢、運動発達の特徴 |
| 第7回 | 脳性麻痺痙直型四肢麻痺の評価と介入 |
| 第8回 | 脳性麻痺痙直型両麻痺の評価と介入 |
| 第9回 | 脳性麻痺痙直型片麻痺の評価と介入 |
| 第10回 | 脳性麻痺アトローゼ型の評価と介入 |
| 第11回 | ケーススタディ（脳性麻痺①） |
| 第12回 | ケーススタディ（脳性麻痺②） |
| 第13回 | 子どもの整形外科疾患の概要 |
| 第14回 | 子どもの整形外科疾患の評価と介入 |
| 第15回 | 知的障害児およびその他の発達障害児の概要 |
| 第16回 | 知的障害児およびその他の発達障害児の評価と介入 |
| 第17回 | 子どもの遺伝性疾患の概要 |
| 第18回 | 子どもの遺伝性疾患の評価と介入 |
| 第19回 | 重症心身障害児の概要 |
| 第20回 | ケーススタディ（グループワーク） |
| 第21回 | ケーススタディ（グループワーク） |
| 第22回 | ケーススタディ（グループワーク） |
| 第23回 | 子どもの呼吸障害，発達障害理学療法学まとめ |

評価方法

筆記試験

教科書

小児理学療法学テキスト改訂第4版（南江堂）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

一年次の人間発達学で学んだ、正常発達、原始反射、姿勢反射・反応について復習してください。

科目名	複合病態理学療法学						
担当講師	佐藤哲哉						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

臨床場面においては，単一疾患であっても複数の病態を持ち合わせている場合が多い。本授業ではこれらを概観していく。解剖・生理等も踏まえて，アセスメントや治療内容も紹介しながら進めていく。

学修到達目標

理学療法を実践していく上で必要となる知識や留意点等を理解する。

授 業 計 画

- 第1回 骨・関節の機能と障害①
- 第2回 骨・関節の機能と障害②
- 第3回 骨・関節の機能と障害③
- 第4回 筋の機能と障害①
- 第5回 筋の機能と障害②
- 第6回 筋の機能と障害③
- 第7回 脳血管疾患の理学療法①
- 第8回 脳血管疾患の理学療法②
- 第9回 脳血管疾患の理学療法③
- 第10回 循環器疾患の理学療法①
- 第11回 循環器疾患の理学療法②
- 第12回 循環器疾患の理学療法③
- 第13回 呼吸器疾患の理学療法①
- 第14回 呼吸器疾患の理学療法②
- 第15回 呼吸器疾患の理学療法③
- 第16回 股関節・大腿骨疾患の理学療法①
- 第17回 股関節・大腿骨疾患の理学療法②
- 第18回 膝関節疾患の理学療法
- 第19回 脊柱・脊椎疾患の理学療法①
- 第20回 脊柱・脊椎疾患の理学療法②
- 第21回 症例紹介①
- 第22回 症例紹介①
- 第23回 症例紹介③

評価方法

筆記試験

教科書

特になし

参考図書・文献

運動療法学・総論, 運動療法学・各論 (各第4版, 第5版) 医学書院

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

特になし

科目名	物理療法学Ⅱ						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

授業概要

講義や実技を通し，各種物理療法における治療理論や実施の流れを学修する。

学修到達目標

1. 各種物理療法の治療目的や作用，適応・禁忌を説明できる。
2. 各種物理療法を模擬患者に対して実施できる。

授 業 計 画

- 第1回 温熱療法の実際①
- 第2回 温熱療法の実際②
- 第3回 寒冷療法の実際①
- 第4回 寒冷療法の実際②
- 第5回 水治療法の実際①
- 第6回 水治療法の実際②
- 第7回 超音波療法の実際①
- 第8回 超音波療法の実際②
- 第9回 電気療法の実際①
- 第10回 電気療法の実際②
- 第11回 電気療法の実際③
- 第12回 光線療法の実際①
- 第13回 光線療法の実際②
- 第14回 牽引療法の実際
- 第15回 各種疾患と物理療法

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材・物理療法学（金原出版）

参考図書・文献**履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)**

治療の目的と治療効果に対する根拠が必要ですので十分な復習をしてください。

科目名	義肢学						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	保健学博士，理学療法士，医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

授業概要

1. 義肢の構造と機能について学修します。
2. 切断者の理学療法について学修します。

学修到達目標

1. 切断の原因と切断前後の管理方法について説明できる。
2. 各種義肢の構造と特徴、機能について説明できる。
3. 義肢装着と切断者に対する理学療法について説明できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 義肢総論 |
| 第2回 | 切断原因と治療 |
| 第3回 | 切断部位と切断術 |
| 第4回 | 切断者に対する理学療法評価 |
| 第5回 | 断端評価と断端管理 |
| 第6回 | 大腿義足ソケット |
| 第7回 | 膝継手 |
| 第8回 | 下腿義足ソケット |
| 第9回 | 足継手 |
| 第10回 | 股義足、膝義足、サイム義足 |
| 第11回 | 異常歩行とアライメント |
| 第12回 | 切断者に対する立位・歩行練習 |
| 第13回 | 上肢切断と義手 |
| 第14回 | 切断者に対する理学療法（グループワーク） |
| 第15回 | 切断者に対する理学療法（発表） |

評価方法

筆記試験

教科書

義肢装具学テキスト改訂 第3版（南江堂）

参考図書・文献

切断と義肢 第2版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

切断者に対する理学療法においては、対象者ならびに義肢装具士との連携が重要となります。解剖・生理・運動学の基礎的知識に加え、各領域の理学療法と関連づけて学修するようにしてください。

科目名	対象者支援学Ⅱ						
担当講師	佐藤浩哉						
実務経験の概要	医学博士，理学療法士，医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	演習						

授業概要

症例検討を中心に対象者支援の具体的な方法を探っていきます。これといった正解はありませんが、一人一人自分なりの支援方法を探ってみてください。

学修到達目標

個別の対象者の支援方法を考えることができるようになる。

授業計画

- 第1回 スマートゴール
- 第2回 症例検討①
- 第3回 症例検討①
- 第4回 症例検討②
- 第5回 症例検討②
- 第6回 症例検討③
- 第7回 症例検討③
- 第8回 振り返り

評価方法

レポート評価

教科書

プリント教材

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

個別のケースの支援策を探っていきます。宿題も計画していますので、頑張ってください。

科目名	地域理学療法学Ⅲ						
担当講師	佐藤浩哉 佐藤卓己 及川忠人						
実務経験の概要	佐藤浩哉 : 医学博士, 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する. 佐藤卓己 : 理学療法士, 病院・介護施設等での実務経験を有する. 及川忠人 : 医師, 病院にてリハビリテーション専門医としての実務経験を有する.						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	通年
授業形態	講義/オムニバス						

授業概要

理学療法士として、地域の中での予防活動の考え方とその手段を中心に学修していきます。また、地域の中で活躍されている諸先生方の考え方を講義していただく予定です。

学修到達目標

- 1, 地域の中での予防活動に関し、理学療法士としての関わり方を説明できるようにします。
- 2, 地域の中で、理学療法士としての予防活動への具体的な方法論を学ぶ。

授業計画

第1回	特別講義	佐藤卓己
第2回	予防医学への関わり	佐藤浩哉
第3回	運動と予防1	佐藤浩哉
第4回	運動と予防2	佐藤浩哉
第5回	栄養と予防1	佐藤浩哉
第6回	栄養と予防2	佐藤浩哉
第7回	介護予防	佐藤浩哉
第8回	健康寿命延伸に向けた予防1	佐藤浩哉
第9回	健康寿命延伸に向けた予防2	佐藤浩哉
第10回	地域へのサービスの普及(起業)1	佐藤浩哉
第11回	地域へのサービスの普及(起業)2	佐藤浩哉
第12回	地域へのサービスの普及(起業)3	佐藤浩哉
第13回	振り返り	佐藤浩哉
第14回	特別講義	及川忠人
第15回	特別講義	及川忠人

評価方法

筆記試験

教科書

標準理学療法学専門分野 地域理学療法学(医学書院) プリント資料

参考図書・文献

理学療法テキスト 地域理学療法学(中山書店)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

近年、理学療法士の予防的活動に対する期待が大きくなっています。予防活動に関しては、社会的な背景の理解と、その考え方が大切になっていきます。尚、講義内容については随時変更になる可能性があります。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	評価実習						
担当講師	佐藤浩哉 菊池賢汰 長野由紀江 及川龍彦 中嶋奈津子 及川真人						
実務経験の概要	佐藤浩哉 : 医学博士, 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 菊池賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 長野由紀江 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 中嶋奈津子 : 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 及川真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。☑						
履修年次	3	単位数	4	時間数	180	開講時期	後期
授業形態	実習						

授業概要

評価実習を通じ、理学療法提供の根幹となる理学療法評価を実践し、その結果をもととした臨床推論を経験の上、治療プログラムを立てる。

学修到達目標

1. 理学療法における評価について一連の流れを理解できる。
2. 理学療法評価の手法を実践できる。
3. 理学療法評価の結果をもとに臨床推論の一部を実践できる。
4. 臨床実習施設において準職員としての行動を取れる。

授 業 計 画

実習期間 令和8年11月2日（月）から11月27日（金）

セミナー 令和8年度11月30日（月）から12月8日（火）

実習施設 医療施設

- 実習内容
1. 臨床教育者の指導の下、対象者への理学療法評価を実践する。
 2. 社会人としての良識を持った行動を行い、スタッフ哉施設職員との連携を実践する。
 3. 臨床において必要な学修・経験を積み、理学療法技能向上を図る。
 4. 自身の行動を振り返り、課題がある場合は修正する。

- 実習後セミナー
1. 実習を振り返り、課題・成果を検証することで、今後の学修目標や計画に役立てる。
 2. 臨床において経験した評価や情報を下し、対象者のレポート、サマリーを作成し、アセスメント過程を学修する。
 3. 症例検討会を行い、アセスメント能力を深める。

- 実習前後評価
1. 事前評価；評価実習前に実施し、評価実習において必要となる技能の習得状況を確認する。
 2. 評価実習後評価；評価実習終了後に実施し、評価実習の実施により得られた技能の習得状況を確認する。

評価方法

提出課題（50％） 評価実習後評価（25％） 実習生評価記録（25％）

教科書

特になし

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)